

宗教研究 2011 年度 総目次

第 85 巻第 1 輯 (368 号) 2011 年 6 月

論文

タラル・アサドと西谷啓治

——「宗教とは何か」という問いをめぐって——……………小野 真 1

血、民族、神——初期マルティン・ブーバーの思想の展開と

そのユダヤ教 (Judentum) 理解の変遷——……………丸山 空大 25

東方イバード派における人間の宗教的分類と忘恩・偽信概念の展開……………近藤 洋平 51

ターハー・アルワーニーのクルアーン解釈理論

——現代イスラーム思想におけるポストモダン性——……………松山 洋平 75

西村茂樹における神道観——国民道徳の基礎をめぐって——……………葛 睿 99

見神と自然をめぐる思索と交錯——綱島梁川と内村鑑三——……………柴田真希都 125

ベットの家族化と葬送文化の変容……………内藤理恵子 151

書評と紹介

市川裕・松村一男・渡辺和子編『宗教史とは何か』(上巻・下巻)……………小田 淑子 175

竹沢尚一郎編『宗教とファシズム』……………鈴木 正崇 187

松村一男著『神話思考 I 自然と人間』……………細田あや子 192

松田美佳著『マイスター・エックハルトの生の教説』……………田島 照久 199

岡部雄三著『ヤコブ・ベーメと神智学の展開』……………鶴岡 賀雄 206

落合仁司著『数理神学を学ぶ人のために』……………星川 啓慈 213

藤井美和・浜野研三・大村英昭・窪寺俊之編著

『生命倫理における宗教とスピリチュアリティ』……………宮嶋 俊一 220

会報……………227

第 85 巻第 2 輯 (369 号) 2011 年 9 月

論文 特集：宗教の教育と伝承

ウォ・ラコタ——アメリカ先住民社会における伝統の継承と実践——……………阿部 珠理 1

宗教の教育と伝承——ベイトソンのメタローグを手がかりにして——……………飯嶋 秀治 29

ユダヤ教におけるタルムード学の意義と批判精神の育成……………市川 裕 57

ニュージーランド先住民における

マオリ的なもの／宗教的なものの学習をめぐって……………伊藤 泰信 83

グローバル化・情報化時代における宗教教育の新しい認知フレーム……………井上 順孝 111

国公立学校における宗教教育の現状と課題……………岩田 文昭 139

近世僧侶の庶民教育へのかかわり——伊予国の手習塾を中心に——……………梶井 一暁 165

総目次

宗教的身体知と生態智の考察——「滝行」を中心にして——	鎌田 東二	193
儒教の伝承について	佐藤 貢悦	221
宗教を伝達する学校		
——ケベックのライシテと道徳・倫理・文化・スピリチュアリティ——	伊達 聖伸	243
神職養成と宗教教育——戦後65年の歩みからみる現状と課題——	藤本 頼生	269
グローバル化時代の宗教知識教育		
——誰が、何のために、何を伝えるのか——	藤原 聖子	293
宗教における表象と造形——その教育的機能をめぐって——	細田あや子	319
ヌルシアのベネディクトゥスとアルルのカエサリウス		
——6世紀の修道院における宗教教育——	矢内 義顕	347
書評と紹介		
島藺進著『国家神道と日本人』	新田 均	371
村田充八著『宗教の発見—日本社会のエートスとキリスト教—』	岡本 亮輔	377
会報		381

第85巻第3輯（370号）2011年12月

論文

世俗化論における宗教概念批判の契機	諸岡 了介	1
エックハルトの「ドイツ語説教86」における「マリア」像——タウラー、 ゾイゼにつづくドイツ神秘思想の基底にあるものの解明に向けて——	阿部 善彦	23
マルグリット・ポレートに対する異端審問における異端理由とその解釈	村上 寛	47
エミール・シオランの神——神の喪失と神への情動——	藤本 拓也	71
書評と紹介		
長谷正當著『浄土とは何か—親鸞の思索と土における超越—』	氣多 雅子	95
“Shugendō: The History and Culture of a Japanese Religion,” <i>Cahiers d'Extrême-Asie</i> 18	ポール・スワンソン	99
小池淳一著『陰陽道の歴史民俗学的研究』	林 淳	102
川村清志著『クリスチャン女性の生活史 —「琴」が歩んだ日本の近・現代—』	川又 俊則	106
櫻井治男著『地域神社の宗教学』	由谷 裕哉	112
板井正斉著『ささえあいの神道文化』	黒崎 浩行	117
津田雅夫編『〈昭和思想〉新論—二十世紀日本思想史の試み—』	藤田 正勝	122
安丸良夫・喜安朗編『戦後知の可能性—歴史・宗教・民衆—』	栗津 賢太	127
櫻井義秀編著『カルトとスピリチュアリティ —現代日本における「救い」と「癒し」のゆくえ—』	深澤 英隆	134
葛西賢太著『現代瞑想論—変性意識がひらく世界—』	井上ウイマラ	141

総目次

森雅秀著『インド密教の儀礼世界』……………	山口しのぶ	148
石森大知著『生ける神の創造力 —ソロモン諸島クリスチャン・フェローシップ教会の民族誌—』…	山中 弘	154
ケネス・タナカ著『アメリカ仏教 —仏教も変わる, アメリカも変わる—』……………	岩本 明美	160
秋山学著『ハンガリーのギリシア・カトリック教会—伝承と展望—』……	久松 英二	166
細田あや子著『「よきサマリア人」の譬え —図像解釈からみるイエスの言葉—』……………	土井 健司	173
伊達聖伸著『ライシテ, 道徳, 宗教学 —もうひとつの19世紀フランス宗教史—』……………	山崎 亮	178
展望		
第9回ドーハ諸宗教対話会議報告記……………	渡辺 学	184
会報……………		189

第85巻第4輯(371号) 2012年3月

第70回学術大会紀要特集

公開シンポジウム: 宗教の創りだす絆——信仰による交わりの意義と可能性——		
Indigenization, Inculturation から Interculturation へ……………	中道 基夫	1
絆喪失時代における宗教運動の課題		
——「宗教」を人々の「痛み」の側にどう開いていくのか——……………	渡辺 順一	23
宗教的ニューカマーと地域社会		
——外来宗教はホスト社会といかなる関係を構築するのか——……………	三木 英	45
現代宗教としてのイスラーム		
——世界的なウンマとモスクを中心とする地域コミュニティ——……………	小杉 泰	71
ディスカッションの要約……………		97
研究報告		
パネル		
東日本大震災と宗教		
宗教の救援活動・応答——宗教者災害救援ネットワークから——……………	稲場 圭信	101
宗教者の活動とソーシャルメディア……………	榎本 香織	102
建学の精神と被災地支援——宗教立大学のばあい——……………	弓山 達也	103
神道系大学におけるボランティアコーディネーターの葛藤……………	板井 正斉	105
パネルの主旨とまとめ……………	稲場 圭信	106
「社会貢献」の霊的次元——日本仏教からの再考——		
「社会貢献」と日本仏教……………	戸田 游晏	107
修二会における祈りと咒……………	平岡 昇修	109

総 目 次

死者と協同する仏教は可能か……………	坂井 祐円	110
仏教看護のめざすもの……………	藤腹 明子	111
パネルの主旨とまとめ……………	戸田 游晏	112
「日本宗教史」を大学でどのように教えるか		
「日本宗教史」の教え方——特に仏教の論じ方と関連して——……………	石上 和敬	114
「日本宗教史」の教え方——特に一神教の論じ方と関連して——……………	小原 克博	115
「日本宗教史」の教え方——特に中国宗教の論じ方と関連して——……………	菊地 章太	116
「日本宗教史」の教え方——特に神道の論じ方と関連して——……………	鎌田 東二	117
パネルの主旨とまとめ……………	星野 英紀	118
宗教間対話の思想——理性は文化の多様性を超えうるか——		
アンセルムス——諸文化を越境する理性——……………	矢内 義顕	120
宗教間対話の思想としてのトマス・アキナスの信仰理解……………	芝元 航平	121
トマス・アキナスの自然法はどこまで普遍的か……………	川添 信介	122
14世紀ビザンツにおける理性と宗教問題——キドニスの試み——……………	橋川 裕之	123
パネルの主旨とまとめ……………	八巻 和彦	125
瞑想的世界認識と宗教研究		
MBSRにおけるスピリチュアリティのあり方……………	井上ウィマラ	126
F. バレーラが開いた瞑想と認知科学の出会い……………	村川 治彦	127
井筒俊彦の瞑想体験と東西思想の比較研究……………	葛西 賢太	128
玉城康四郎の仏教学と現代スピリチュアリティ研究……………	伊藤 雅之	130
パネルの主旨とまとめ……………	葛西 賢太	131
近代国家におけるサンガ・僧侶		
なぜインド仏教は消滅したか……………	立川 武蔵	132
ミャンマーにおける国家・サンガ関係……………	藏本 龍介	133
カンボジアにおけるサンガの断絶と復古……………	小林 知	135
東アジアの近代仏教——Eastern Buddhismの成立——……………	林 淳	136
パネルの主旨とまとめ……………	林 淳	137
アジア／戦争／新仏教		
近代日本仏教史研究における〈アジア〉と〈戦争〉……………	大谷 栄一	139
東アジア世界に対する新仏教徒の視線……………	高橋 原	140
新仏教徒の戦争観……………	守屋 友江	141
新仏教徒のラジオ出演——高嶋米峰を中心に——……………	坂本 慎一	143
パネルの主旨とまとめ……………	大谷 栄一	144
日本宗教の環境倫理と社会活動		
シンプルライフ普及センターの仏教理念と市民的实践……………	小笠原宏樹	145
現代日本の大学生のモノ供養観……………	隈元 正樹	146

総目次

草の根エコ運動の現状と課題——立正佼成会の環境配慮活動——	深田伊佐夫	148
炭素ゼロ運動にみる環境倫理——生長の家の環境方針と教団実践——	寺田 喜朗	149
パネルの主旨とまとめ	寺田 喜朗	150
新しい近代日本仏教研究へ——自他認識・国民国家・社会参加——		
近代移行期における真宗——護法論を中心に——	岩田 真美	151
監獄教誨の誕生——明治前期の国家・仏教・統治——	繁田 真爾	153
明治中期における日本仏教の言説的位相		
——仏教公認運動を中心に——	オリオン・クラウタウ	154
仏の語り方の近代——近角常観を中心として——	碧海 寿広	155
パネルの主旨とまとめ	オリオン・クラウタウ	156
死者供養をめぐる諸問題——東アジアの視点から——		
人はなぜ石塔墓をたてるのか——阿弥陀信仰と弥勒信仰——	松尾 剛次	158
幽霊の誕生——江戸時代における死者供養の変容——	佐藤 弘夫	159
無遮と無主——無縁供養の動態性——	池上 良正	160
変貌する韓国の死者供養に対する人々の意識と葛藤	井上 治代	161
パネルの主旨とまとめ	松尾 剛次	163
多様化する現代日本の「移民と宗教」の理解に向けて		
現代日本の滞日外国人の宗教状況とその研究動向	高橋 典史	164
ブラジル系教会の場合——適応と自立のはざままで——	星野 壮	166
中華系キリスト教会の東アジア展開	藤野 陽平	167
カトリック教会による滞日外国人への支援	白波瀬達也	168
パネルの主旨とまとめ	高橋 典史	169
植民地朝鮮と宗教——宗教概念論を超えて——		
植民地朝鮮における宗教概念をめぐる言説編成	磯前 順一	171
1910年前後における「宗教」の行方——帝国史の観点から——	金 泰勲	172
渡瀬常吉の朝鮮伝道における論理——その初期伝道活動を中心に——	裴 貴得	173
崔南善と「朝鮮の固有信仰」	沈 熙燦	174
パネルの主旨とまとめ	磯前 順一	175
教団改革運動と女性——ジェンダー宗教学の視点から——		
開かれた伝統仏教教団とジェンダー宗教学の交差するところ	川橋 範子	177
アメリカの浄土真宗における女性たち	本多 彩	178
聖公会における司祭職の再検討——女性の司祭叙任をめぐって——	香山 洋人	179
女性聖職者の按手をめぐって——在日大韓基督教会の事例——	李 恩子	180
パネルの主旨とまとめ	川橋範子・小松加代子	180
「伝統」と「近代」を超える女性の実践——ジェンダーの視座から——		
「良妻賢母」の登場——ポスト社会主義のロシア正教会の女性像——	井上まどか	182

総目次

近代医療のなかで上座仏教をいきる——中国タイ族女性の出産から——	磯部 美里	183
現代医療の現場にみる伝統宗教——天使の病棟訪問——	石井賀洋子	184
女性修験者とライフコース——「在家」宗教者の葛藤と克服——	小林奈央子	186
パネルの主旨とまとめ	小林奈央子	187
現代沖縄の社会、文化にみる「本土化」と「沖縄化」の相互作用		
沖縄の死者慣行にみる「本土化」と「沖縄化」の相互作用	村上 興匡	188
聖地の観光資源化による沖縄表象の創出	塩月 亮子	190
社会事業としての遺骨収集——沖縄の戦死者の現在——	佐藤 壮広	191
パネルの主旨とまとめ	村上 興匡	192

第1部会

「無縁社会」の宗教	宮本要太郎	194
アメリカ黒人のオリシャ崇拝運動にみる縁の形成とジェンダー	小池 郁子	195
東西霊性交流におけるヨーロッパ側の受け止め方——その一例——	峯岸 正典	196
日本における宗教間対話の現状	武藤 亮飛	197
異邦人入会の二類型——キリスト教共同体成立の理解に向けて——	市川 裕	199
大災害と複数宗教性	濱田 陽	200
災害と救済論理	米井 輝圭	201
カトリックの宗教儀礼のもつ社会的役割——初聖体の事例をもとに——	岡光 信子	202
ドイツにおける移民統合政策とイスラームの制度化	堀 彩子	204
ラストファリアニズムとブラックムスリムにおけるアフリカの記憶	上間 励起	205
アンテベラム期アメリカの宗教とジャーナリズム	佐藤 清子	206
現代日本社会における宗教と暴力——オウム真理教と「すびこん」——	橋迫 瑞穂	207
予言が当たったとき——アセンション信奉者の震災後の態度——	堀江 宗正	208
近代化・世俗化・宗教——危機の時代からの再考察——	中野 毅	209
パールシー社会におけるナオジョテの意義	香月 法子	211

第2部会

国立大学神学部廃止とイタリア宗教史学	江川 純一	212
折口信夫と大川周明——民俗学と宗教学の起源をめぐって——	安藤 礼二	213
「世界を宗教的に見る」という観念について	飯田 篤司	215
クリアーヌの思想における反ソヴィエト的「宗教」	奥山 史亮	216
宗教学と科学——I. P. Culianu の場合——	佐々木 啓	217
日本神話研究史の諸問題	松村 一男	218
「否定」の宗教学	関 一敏	220
宗教存続のメカニズム——民族宗教の場合と制度化の意味——	小田 淑子	221
明治政府の宗教政策とキリシタン集落	内藤 幹生	222

総目次

戦前の宗務行政——文部省宗教局を中心に——	大澤 広嗣	223
宗務行政の実施した調査とその特徴	石井 研士	225
戦後日本宗教ナショナリズムの分析枠組に関する試論	塚田 穂高	226
天皇と黎帝・将軍と鄭王——日越国家祭祀比較研究序説——	井上 智勝	227
大学における宗教教育に関する認識と期待	荻野 勝行	228
近代日本における道德教育——新渡戸稲造の場合——	森上 優子	230
河野省三の神道観——神道教育に関する理論を中心に——	中道 豪一	231
大正自由主義教育と宗教教育論——『宗教教育講座』を中心に——	齋藤 知明	232
ドイツ・バイエルン州における宗教科と各宗教団体の関係	石川 智子	233
宗教系学校における性教育	猪瀬 優理	234
公教育からみるインドのセキュラリズム——歴史教科書の検討——	澤田 彰宏	236
ケベックの「倫理・宗教文化」教育における「宗教」の位置	伊達 聖伸	237
宗教学における分類の問題と教育	藤原 聖子	238
宗教教育の二方向——水平的多元主義と垂直的多元主義のあいだ——	津城 寛文	239
第3部会		
エルンスト・トレルチと保守革命	小柳 敦史	241
トレルチにおける〈文化史〉の概念	塩濱 健児	242
「ユダヤ人イエス」と近代ドイツ	久保田 浩	243
ルドルフ・オットーとデ・ヴェッテ	藁科 智恵	244
ルドルフ・シュタイナーのキリスト教論	野口 孝之	246
ブーバーにおける「原離隔」について	田島 卓	247
M. ブーバーにおけるユダヤ教律法の祭儀規定	堀川 敏寛	248
「生の宗教」の出現——ジンメル『宗教』の改訂をめぐる——	深澤 英隆	249
ハンナ・アーレントの『人間の条件』再考——世界への愛——	今出 敏彦	250
ボンヘッフアーの良心論	岡野 彩子	251
エコ神学試論——ティリッヒを手掛かりに——	近藤 剛	253
「相関」という問題について	松田健三郎	254
宗教的実在論と象徴——波多野とティリッヒ——	芦名 定道	255
北方における復讐観——サガ・カレワラ・ユーカラをとおして——	中里 巧	256
ロシア思想の終末論的要素の問題について	元春 智裕	258
ラインホルド・ニーバーの現実主義	澤井 治郎	259
リタ・バセにおける「聖なる怒り」	伊原木詩乃	260
レヴィナスにおける言語と他性	重松 健人	261
記憶論が宗教哲学にもたらすもの——ルロワ＝グーランを中心に——	佐藤 啓介	263
ゲオルグ・カントルの神学	落合 仁司	264
初期 R. ロランにおける芸術と宗教	掛川 富康	265

総 目 次

最近のハーバーマスの宗教論について——世俗倫理と宗教倫理の間——	……後藤 正英	266
言語的宗教構成主義の可能性——ブランダムの単称名問題を受けて——	……松野 智章	268
基督教に対する理論上の四つの疑問及び理由と当該論の若干の適用	……工藤 亨	269
現代思想の宗教回帰——スラヴォイ・ジジェクの議論を中心として——	……加藤 喜之	270

第 4 部会

アリストテレスの友愛論とギリシャ悲劇	……長峯素真生	272
死を意味づける語り——古代キリスト教周辺と死生学——	……土居 由美	273
オリゲネスの著述活動と「テキスト共同体」	……出村みや子	274
ミトラ教研究——16世紀のゾロアスター教ペルシア語写本から——	……青木 健	275
プロクロスにおけるオケーマをめぐる	……土井 裕人	277
アウグスティヌス『告白』における新プラトン主義の位置づけ	……山田庄太郎	278
キリスト教教義の視覚化とその受容	……細田あや子	279
愛の観想——サン・ヴィクトール学派における交わりの神学——	……中村 秀樹	280
マイスター・エックハルトにおける時間論の構造	……田島 照久	282
クザーヌスの認識論と宇宙論——〈否定神学〉を可能にするもの——	……島田 勝巳	283
聖女／魔女考——西洋中・近世の魔女言説から——	……黒川 正剛	284
いわゆる『魔女への鉄槌』における「魔女」概念について	……野村 仁子	285
スピノザの自由について	……鈴木 忠司	287
ウェスレーのサタン理解	……野村 誠	288
カントの人間観と最高善	……南 翔一郎	289
フィヒテ宗教論の展開とシェリング	……諸岡道比古	290
神性と人間——フリードリヒ・シラーの遊戯衝動について——	……田口 博子	291
キルケゴールにおける正義の問題——「真理の証人」概念から——	……須藤 孝也	293
ニーチェ後期思想における宗教と「教育」という問題	……松田 愛	294
前期ヤスパーズにおける信仰と信仰の交わりの問題	……藤田 俊輔	295
ヤスパーズとブルトマン	……岡田 聡	296

第 5 部会

タバリーのタフスィールにおけるクルアーン解釈理論	……澤井 真	298
マイモニデスにおけるイスラーム思弁神学者の神学論議	……神田 愛子	299
スーフィー文学におけるシンボリズムとナータ・ヨーガ	……榊 和良	300
イスラーム的自然法論の意義と問題点	……浜本 一典	301
アレヴィー／アレヴィーリキの認識と政治——宗教と文化の間——	……佐島 隆	303
グローバル化の中のイスラム——イスラムの市場価値化をめぐる——	……八木久美子	304
仏教徒が語るアッラー——教義の壁への挑戦——	……小布施祈恵子	305
一神教による偶像崇拜批判が意味するもの	……若林 明彦	306
その地（創世記 1:2a）は混沌であったか	……野口 誠	307

総 目 次

アブラハムの沈黙とテキストの沈黙——創 22 における三日の旅路——	岩 嵯 大 悟	309
ユダヤ教の「呪術」観——成文律法と口伝律法の比較から——	大 澤 耕 史	310
申命記における祭司と王——社会的アイデンティティ理論の適用——	高 橋 優 子	311
ユダヤ教聖書解釈における「預言者」と「祭司」のパラダイム	勝 又 悦 子	312
芸術とスピリチュアリティ——美大生への質問紙調査から——	久 保 田 力	314
「迷宮」図像群とスピリチュアルケア	中 島 和 歌 子	315
追憶の匂い——むかしの香にぞなほにほひける——	吉 村 晶 子	316
物語の宗教性に関する心理学的考察	大 澤 千 恵 子	318
宗教体験の語りの諸相とその現代的意義	村 上 晶	319
「体験の学知」としての近世西欧神秘主義批判	渡 辺 優	320
諸伝統における「宇宙的聖歌・祈り」の概念をめぐる考察	リ ア ナ ・ ト ル フ ァ シ ュ	321
ユングの“世界観”についての一考察	杉 岡 正 敏	322
ルドルフ・シュタイナー神秘主義における宗教性	西 井 美 穂	324
井筒俊彦の神秘主義論とその意味構造	澤 井 義 次	325
第 6 部会		
『雑阿毘曇心論』業品における無間業の最大罪と最大果について	智 谷 公 和	326
古代インドにおける支配について——vaśa と vasa ——	杉 岡 信 行	327
一闡提について	南 部 千 代 里	328
第一結集における阿難——有学から無学へ——	龍 口 明 生	330
大乘仏教教団の連帯感——「善男子善女人」の原意——	阿 理 生	331
『阿毘達磨俱舍論』における作用の意義	日 比 佑 香	332
東南アジア撰述仏典の特質	茨 田 通 俊	333
新発見安世高訳『十二門経』における写本構造上の問題点	洪 鴻 榮	334
『論註』「名義摂対」の論理とその背景	田 中 無 量	336
「往生伝類」における善導・善道間についての一考察	山 崎 真 純	337
無量寿経の浄土観	緒 方 義 英	338
吉蔵の法華経疏における仏身論——寿量品の解釈を中心として——	藤 野 泰 二	339
雲棲株宏の不殺生思想	西 村 玲	341
「アヒンサー」の実践をめぐるチベット仏教僧と漢民族信徒の関係	別 所 裕 介	342
近代中国東北部仏教の一動向	野 世 英 水	343
第 7 部会		
親鸞の回向思想について	中 山 彰 信	345
親鸞の念仏の内的構造	加 藤 智 見	346
親鸞「自然法爾」における「はからひ」の意味	藤 能 成	347
親鸞の六字釈について	貫 名 譲	348
親鸞における善光寺信仰について	安 藤 章 仁	350

総目次

存覚上人の行信理解における一考察……………	川野 寛	351
環中の廻心についての一考察——『正中録』著述の真意——……………	西原 法興	352
七百五十回忌の親鸞像私考……………	御手洗隆明	353
浄土真宗と現代社会……………	林 智康	354
然阿良忠における『十住毘婆娑論』理解……………	那須 一雄	356
平安期の仏教説話集と〈贈与論〉——『注好選』を中心に——……………	稻城 正己	357
『西方発心集』の思想と表現……………	龍口 恭子	358
『教時問答』における「一心一心識・一切一心識」について……………	土倉 宏	359
「明鏡」の比喻について——中国仏教と日本禅仏教の比較より——……………	宮地 清彦	361

第8部会

日蓮の宗教性の原体験——正嘉の大地震と禍の預言の形成——……………	笠井 正弘	362
再度、日蓮の地涌・上行自覚を論ず——山上氏の批判をうけて——……………	間宮 啓壬	363
日蓮における無戒思想の宗教的意味……………	北川 前肇	365
日興門流における諫暁活動の展開……………	本間 俊文	366
編年体御書目録『祖書目次』の書誌学的研究……………	木村 中一	367
近代日蓮仏教と生命言説——日蓮系新宗教の救済観の比較——……………	大西 克明	368
日蓮における信徒教化——病を中心として——……………	奥野 本勇	369
日蓮『注法華経』寿量品における『法華文句』の注記について……………	関戸 堯海	371
山川智応の浄土教批判……………	前川 健一	372
近代仏教と須弥山儀——近代的自然観と仏教——……………	岡田 正彦	373
近代仏教における世界観と社会観——真宗僧佐田介石を中心として——……………	常塚 聡	374
近代真宗の「恩寵主義」に関する一考察——多田鼎を事例として——……………	春近 敬	376
横川顕正の『禅思想史』観……………	和田 真二	377
謡曲における仏僧——僧ワキの宗教的機能について——……………	今泉 隆裕	378
在家仏教の顕れとしての説経節……………	千葉 俊一	379
瑠璃壇考——信州善光寺の場合——……………	小林 順彦	381
『弘智法印御伝記』と即身仏の研究……………	ジョン・モリス	382
白山——『泰澄和尚伝』、『白山記』がかたるもの——……………	小林 一蓁	383
祈禱寺院における聖地空間と信者のニーズ……………	阿部 友紀	384
仏神の現代的展開——金毘羅神のポストモダン——……………	白川 琢磨	385

第9部会

陰陽道における「神話」の意義……………	小池 淳一	387
〈殺す神〉としての須佐之男命について……………	小濱 歩	388
北畠親房における祭政一致説の意義……………	齋藤 公太	389
禁裏御師について……………	加崎 千恵	390
近世期における西京神人の変化……………	吉野 亨	392

総 目 次

山崎闇斎の「神」概念について……………	孫 傳玲	393
手島堵庵の思想と宗教体験……………	澤井 努	394
排仏思想における二様のベクトル——反仏教者の言説の再検討—— ……	森 和也	395
伯家神道の展開に関する一考察……………	山口 剛史	397
平田篤胤と道教——『志都能石屋』『暨宗仲景考』について—— ……	坂出 祥伸	398
前橋神女と平田門人たち……………	三ツ松 誠	399
自然災異の神道的表象の認知宗教学的アプローチの試み……………	井上 順孝	400
アーネスト・サトウと国学……………	遠藤 潤	401
近代日本における大祓詞の解釈……………	鈴木 一彦	402
明治期の祭祀制度……………	竹内 雅之	404
〈聖なる皇族〉と宮内省——宮内庁所蔵公文書の分析から——……………	茂木謙之介	405
不安障害と日本の宗教——天理教の事例から——……………	熊田 一雄	406
八百万一神教——大本教の神思想について—— ……	川島 堅二	407
新宗教研究と複数の経路……………	永岡 崇	409

第 10 部会

曾我量深の象徴世界観……………	村山 保史	410
西田幾多郎における罪・悪の問題……………	太田 裕信	411
西田とハイデガー——絶対無の自覚と存在了解—— ……	岡 廣二	413
『善の研究』と「宗教的要求」……………	杉本 耕一	414
後期西谷啓治の身体論——大谷大学講義より——……………	小野 真	415
鈴木大拙の道元理解……………	蓮沼 直應	416
鈴木大拙と華嚴経……………	嶋本 浩子	417
靈性知識人としての上原専祿——その晩年の思想を中心に—— ……	安藤 泰至	419
西郷隆盛はキリシタンだったか？……………	坂本 進	420
久米邦武の幸福論……………	西田みどり	421
神との出会いと自然をめぐる諸経験——透谷・独歩・蘆花の場合—— ……	柴田真希都	422
山村暮鳥のキリスト教思想……………	岩野 祐介	423
賀川豊彦の悪概念……………	スティッグ・リンドバーク	425
逢坂元吉郎の身体論……………	寺尾 寿芳	426
斎藤茂吉の病者への眼差し……………	小泉 博明	427

第 11 部会

ヒンドゥー教の葬儀と祖先祭祀……………	虫賀 幹華	428
韓国葬墓文化と近代——慶尚南道南海郡を事例として—— ……	田中 悟	429
韓国降神巫の地域的様相——憑依霊としての死者を通して—— ……	川上 新二	431
送葬における遺品と貨幣——唱衣法の考察から——……………	金子 奈央	432
遺影奉納と死者の追悼——岩手県宮古市のある寺院の事例から—— ……	山田 慎也	433

総 目 次

奄美・南薩地域と戦争死者慰霊——戦局環境複合の慰霊論に向けて——	西村 明	434
死者の棲むランドスケープ——公園緑地協会の墓苑構想について——	土居 浩	435
墓と人のエージェンシー——現代沖縄における墓の変容を事例に——	越智 郁乃	437
情報化による墓参りの変容	坪内 俊行	438
自然物および人工物の擬人化にみられる信仰心	永原 順子	439
沖縄の抱護と集落の位置関係	鈴木 一馨	440
過疎地域の祭祀現状——単一産業型集落栃木県旧足尾町の事例——	冬月 律	442
洪水と稲作儀礼——大垣市十六町の粥占いを中心に——	下本英津子	443
流行神をめぐる一考察	黄 緑萍	444
祝（ハフリ）と動物供犠	鈴木 良幸	445
「霊媒」再考	佐藤 憲昭	447
江戸期の伊勢・山田における寺院の変遷——寺町の形成と崩壊——	河野 訓	448
東京都二十三区域西北部の「路傍の地蔵」	清水 邦彦	449
神概念をめぐる言説空間——現代日本の場合——	近藤 光博	450

第 12 部会

サンタ・ムエルテ信仰をめぐる正統性とその変化	井上 大介	452
分裂と信仰実践——ネパールにおけるプロテスタントの教会分裂——	丹羽 充	453
エジプト 1 月 25 日革命とコプト・キリスト教	岩崎 真紀	454
大阪万博キリスト教館にみるキリスト教の戦後	川口 葉子	455
宗教からみる日韓の文化交流——キリスト教と新宗教を手がかりに——	李 賢京	457
日本産ブラジル系プロテスタント教会信者のブラジルへの再適応	山田 政信	458
ハーレムの黒人教会を考える	芦名 裕子	459
マハトマ・ガンディーにおける宗教的多元主義と世俗主義	外川 昌彦	460
天宙清平祈禱苑の「恨言説」——90 年代以降の統一教の恨——	古田 富建	462
ヤチェン修行地におけるカリスマの動向——中国四川省の宗教政策——	川田 進	463
東シナ海周辺地域の媽祖信仰と日本の聖母信仰	本間 浩	464
1990 年代台湾の社会変化とアミ族宗教のシャーマニズム的対応	原 英子	465
バリ島の宗教儀礼におけるトランスと変容力について	磯 忠幸	466
戦後のサラワクにおける人類学とアダット	土佐美葉実	468
タイ上座仏教と行政事業	矢野 秀武	469
翻訳と布教——タイにおける天理教の事例から——	永松 和郎	470
植民地布教の実態と虚像——朝鮮布教統計表の解析から——	工藤 英勝	471

第 13 部会

痛みの宗教的意味	村上 喜良	473
「障害」のキリスト教的意味	寺戸 淳子	474
真宗文化圏域での障害者運動の可能性——CIL だんないの研究——	頼尊 恒信	475

総目次

浄土真宗本願寺派におけるビハーラ活動の意義	伊東 秀章	476
自殺に対する宗教者の活動について	小川 有閑	478
代替療法「ホメオパシー」をめぐる言説の分析	平野 直子	479
宗教者としてのエンゲルハート——宗教的生命倫理という試み——	池澤 優	480
仏教の生命観と代理母	金 永晃	481
宗教的な行為としてのホスピタリティについての一考察	吉田 恵	483
先端医療技術における弱者へのケア	冲永 隆子	484
フランス・ベイコンにみる自然探求の宗教性	下野 葉月	485
ウィリアム・ジェイムズにおける科学と宗教	林 研	486
「信」をめぐる——認知科学的観点からの現実／虚構——	谷内 悠	488
近年の宗教心理学における死と宗教——比較的考察——	イーリヤ・ムスリン	489
心と脳概念性と実在	冲永 宜司	490
創造論批判の科学的検証——R. ドーキンスの事例を中心として——	十津 守宏	492
脳神経科学と宗教——自由意志と決定論の問題を中心に——	方 俊植	493
J. ヒックの自由意志論——神経科学の挑戦に対する一応答——	保呂 篤彦	494
日本における「宗教を精神医学からみる研究」の視点の諸相	大宮司 信	495
プラグマティズムとしての専修念仏	菱木 政晴	496
妙好人浅原才市における「入信」に至る心的過程に関する一考察	中尾 将大	497
ルドルフ・オットーと禅——Geleitwort から——	木村 俊彦	499
第 14 部会		
京鹿子娘道成寺における聖なる女性についての一考察	東本早紀子	500
宗教における“女”の伝統——天理教婦人会についての一考察——	堀内みどり	501
仏教と女性をめぐる現代的課題——女性仏教徒たちの語りから——	丹羽 宣子	503
世界遺産のオーセンティシティ概念と神仏習合	中西 裕二	504
二大霊場巡拝者の実態——四国と西国を比較して——	柴谷 宗叔	505
四国遍路のグローバル化に関する一考察	浅川 泰宏	506
巡礼者の定義をめぐる差異の所在——イード&サルノウ後の展開——	土井 清美	507
現代の聖地にみる「癒し」と「蘇り」——熊野セラピーを事例に——	天田 顕徳	509
観光地としての聖地——ブラジル世界救世教の聖地ガラピランガ——	松岡 秀明	510
聖なる観光地——宗教ツーリズム論からみたパワースポット——	岡本 亮輔	511
新しい巡礼の創出——長崎カトリック教会群の世界遺産化——	山中 弘	512
国際ツーリズムと華人祭祀——タイとマレーシアの事例をもとに——	山下 博司	514
九曜信仰と聖地巡礼——南インド、タミル・ナードゥ州の事例から——	飯塚 真弓	515
会報		517
宗教研究 2011 年度総目次		xvii